

	現状・問題点	課題	具体的な授業改善策
国語	<p>&lt;生徒&gt; ・定期考査等の書くことにおいて、得意な生徒と苦手な生徒が二極化している。</p> <p>&lt;教職員&gt; ・単元によって、読むことと関連付けながら意見文・説明文、また詩の創作活動などを行っている。</p>	<p>&lt;生徒&gt; ・文種に応じた書き方や推敲の仕方を習得する。</p> <p>&lt;教職員&gt; ・書くことの手順を身に付けさせ、何を書けば良いか困り感のある生徒への支援を行う。</p>	<p>・課題設定・情報収集・整理分析・まとめといった目的を明確にして、活動を行う。</p> <p>・自分が書いた文章を読ませ、振り返りをする機会を設ける。</p> <p>&lt;ICT活用の視点&gt; ・タブレットを使用することで、文章を入れ替えるなどの推敲を容易に行えるようにする。</p> <p>&lt;ユニバーサルデザインの視点&gt; ・ワークシートを用いるなど、スモールステップで書けるように指導する。</p> <p>・タブレットの使用によって書字を苦手とする生徒の抵抗感を無くす。</p>
社会	<p>&lt;生徒&gt; ・自分の考えを表現することに苦手意識を感じている生徒がいる。</p> <p>&lt;教職員&gt; ・他者と意見を交換したり、それを受けて自分の考えを深めたりする機会を設定しきれていない。</p>	<p>&lt;生徒&gt; ・自分の言葉で社会的事象について思考し、表現する力を身に付ける。</p> <p>&lt;教職員&gt; ・自分の言葉で説明させる活動を単元に最低1つ設定し、生徒の思考力や表現力を育成する。</p>	<p>・生徒が意見を表現しやすくなる手法であるグループでの話し合い活動や役割演技等を、各単元において意図的に配置し、確実に実施する。</p> <p>&lt;ICT活用の視点&gt; ・ホワイトボードやタブレットの多様な学習支援ツールを活用して、自分の意見を表現する活動の円滑化を図る。</p> <p>&lt;ユニバーサルデザインの視点&gt; ・考察させる前に、考察する際の視点を明確に示していく。</p> <p>・「ヒントカード」など、生徒の考察を促すツールを活用する。</p>
数学	<p>&lt;生徒&gt; ・基礎学力の定着が図れていない生徒が一定数いる。</p> <p>・具体的には、計算力や基本的な知識が定着していない生徒がいる。</p> <p>&lt;教職員&gt; ・生徒が数学的な問題に対して、主体的に取り組むように促しきれていない。</p>	<p>&lt;生徒&gt; ・基礎学力を身に付けて、計算力を向上させる。</p> <p>&lt;教職員&gt; ・少人数授業において、個に応じた指導に力を入れる。</p>	<p>・ペアワーク等の活動を取り入れ、意見や考えを交換する機会を設ける。</p> <p>・数学的な活動を積極的に取り入れる。</p> <p>・生徒の理解度に合わせた個別指導の充実を図る。</p> <p>&lt;ICT活用の視点&gt; ・関数や図形等の分野において、視覚的に理解を深める教材を活用する。</p> <p>&lt;ユニバーサルデザインの視点&gt; ・短い指示で分かりやすい説明や発言を心掛ける。</p>
理科	<p>&lt;生徒&gt; ・日常生活での科学的な経験が不足しており、見聞きした知識が先行になる傾向が高い。</p> <p>&lt;教職員&gt; ・実感を伴った理解を図るため、観察・実験を軸とした授業を展開している。</p>	<p>&lt;生徒&gt; ・課題を見出し、予想(仮説)を立てて検証し、考察する力の育成が必要である。</p> <p>&lt;教職員&gt; ・探究の過程を踏んだ授業をデザインし、論理的な思考力・表現力を高めるアプローチをする。</p>	<p>・理科の興味・関心を高める授業導入時の工夫を行う。</p> <p>・観察、実験を充実させ、結果(事実)を根拠にして考察し表現する指導の充実を図る。</p> <p>・探究の過程の中でも実験計画の立案、仮説の生成や、結果の振り返りを重点的に行う授業を、1単元に1回は取り入れるようにする。</p> <p>&lt;ICT活用の視点&gt; ・写真や映像を観察、実験レポートに入れ込む等、検証結果をICTの良さを活用して表現させたり、科学に関わる情報を配信したり工夫をしている。</p> <p>&lt;ユニバーサルデザインの視点&gt; ・指示を簡潔に。授業のねらいを明確に示していく。</p>
音楽	<p>&lt;生徒&gt; ・歌の授業に積極的に取り組む生徒が多い。</p> <p>・音楽の授業で取り扱うような音楽に日常的に親しむ生徒は少ない。</p> <p>&lt;教職員&gt; ・限られた授業数で多くの題材を扱うことが難しい。</p>	<p>&lt;生徒&gt; ・歌の授業で、楽譜を読み解いて歌う能力を向上させる。</p> <p>&lt;教職員&gt; ・授業の導入部分で楽典的な内容を少しずつ確認していく。</p> <p>・実感を伴う授業を展開する。</p>	<p>・音楽の変遷をたどりながら様々な音楽に触れる授業をし、現代の音楽とのつながりを意識させた授業を展開する。</p> <p>・意見交流の場を設定する。</p> <p>&lt;ICT活用の視点&gt; ・様々な音源を用意し、比べたり、何度も聴けたりできるようにする。</p> <p>&lt;ユニバーサルデザインの視点&gt; ・楽譜や歌詞を電子黒板に映し出し、視覚的にとらえられるようにする。</p> <p>・音楽記号を大きく提示する。</p>
美術	<p>&lt;生徒&gt; ・課題を積極的に行う生徒が多い。</p> <p>・日常的に美術に関わる活動を行う生徒は少ない。</p> <p>&lt;教職員&gt; ・制作を主とした授業で、体験の多い取組を行っている。</p>	<p>&lt;生徒&gt; ・絵画や彫刻などに必要な基礎的知識を制作を通して、より学んでいく。</p> <p>&lt;教職員&gt; ・個人に合った制作アドバイスを、体験を通して行っていく。</p>	<p>・制作を通して日常的に美術に興味を持てるよう、声掛けをしてゆく。</p> <p>・生活の中にある色やグラデーションに興味をもてるよう説明する。</p> <p>&lt;ICT活用の視点&gt; ・アイデアをもてるよう、様々なデザインを活用してゆく。</p> <p>&lt;ユニバーサルデザインの視点&gt; ・制作過程を簡潔に説明し、体験を通してわかりやすく説明する。</p>
保健体育	<p>&lt;生徒&gt; ・運動に親しむ生徒が多い。</p> <p>・個に応じた技能の向上が必要とされる。</p> <p>&lt;教職員&gt; ・運動量の確保と話し合いの両立が難しい。</p>	<p>&lt;生徒&gt; ・自分自身の課題を把握し、工夫して取り組む力を身に付ける。</p> <p>&lt;教職員&gt; ・ICTを活用した授業の実践をする。</p> <p>・意見交換や考えを伝え合う場の設定。</p>	<p>・自己の課題を見つけ、解決に向けて取り組むことができるようにする。</p> <p>・ペア活動を取り入れ、考えを伝え合うことができるようにする。</p> <p>&lt;ICT活用の視点&gt; ・動きを撮影し、課題発見や動きの分析に活用する。</p> <p>&lt;ユニバーサルデザインの視点&gt; ・撮影した動画を見て視覚的に理解し、技能の定着を図る。</p>
技術・家庭	<p>&lt;生徒&gt; (技術) ・話し合い活動を通じて考えたり、発表したりする機会が少ないと感じている生徒がいた。</p> <p>・授業に対して、満足度や理解度が高い。</p> <p>(家庭) ・日常生活に必要な技能が不足している生徒がいる。</p> <p>&lt;教職員&gt; (技術) 実習に向けての知識的な講義が多く、話し合い活動を実施する時間が限られていた。</p> <p>(家庭) 基本的な知識を学び、実習や作品製作を通して技能が身につくよう指導している。</p>	<p>&lt;生徒&gt; (技術) 安全性を前提とした、さらなる実習技能を習得する。</p> <p>(家庭) 日常生活に直結する具体的な技能を習得する。</p> <p>&lt;教職員&gt; (技術) ・話し合い活動を講義や実習の時間にも組み込んでいく。</p> <p>・今後も、生徒が満足できる、理解しやすい授業を作っていく。</p> <p>(家庭) ・実生活に役立つ作品製作・調理実習などの授業の実施。</p>	<p>・(技術) 話し合い活動を充実させる。</p> <p>・(技術) 実習や講義、どちらの授業にも、話し合い活動を入れていく。</p> <p>・(技術) ICT機器を効率的に活用していく。</p> <p>・(家庭) 基礎的な技能の学習を確実に実施した後、発展的な技能実習を行う。</p> <p>&lt;ICT活用の視点&gt; ・(技術) グループ活動、話し合い活動を活性化するために、ミライシード・オクリンクプラスを活用する。</p> <p>・(家庭) 調理や被服の技能の動画などを活用する。</p> <p>&lt;ユニバーサルデザインの視点&gt; ・(技術) 言語の違いによる、理解力の差異をなるべく減らす為に、実物の資料や作業の動画を増やしていく。</p> <p>・(家庭) 見やすい掲示、板書を行う。被服作品の製作途中の見本を掲示する。</p>
英語	<p>&lt;生徒&gt; ・基礎学力の定着が図れていない生徒が一定数いる。</p> <p>&lt;教職員&gt; ・少人数授業を活用した、下位層の効果的な引き上げがまだ徹底できていない。</p>	<p>&lt;生徒&gt; ・聞く力、読む力、書く力、話す力の4技能全て、バランスよく知識・技能を身に付ける。</p> <p>&lt;教職員&gt; ・基礎基本のスパイラル学習の徹底をする。</p> <p>・少人数授業を活かした協働学習の推進をする。</p>	<p>・基礎基本に関する内容における協働学習の機会を増やす。</p> <p>・少人数授業の利点を生かし、個々に応じた指導の充実を図る。</p> <p>・基礎基本を活用した活動が「楽しい」「やりたい」と思わせる仕掛けを積極的に取り入れる。</p> <p>&lt;ICT活用の視点&gt; ・個々の活動で、タブレットを積極的に活用する機会を設ける(デジタル教科書、AIなど)。</p> <p>&lt;ユニバーサルデザインの視点&gt; ・授業の「めあて」を簡潔にわかりやすく提示する。</p> <p>・Classroom English を簡潔にわかりやすく出す。</p>